

## 77 高齢者の交通事故

平成30年1月18日掲載

近年、高齢者が関わる交通事故のニュースをよく目にします。昨年は、3月から12月末までの間に5回、「高齢者交通死亡事故多発警報」が発令されました。そこで今回は高齢者の交通事故の状況について見てみましょう。

グラフは、交通事故の全死亡者のうち、高齢者（65歳以上）の占める割合を都道府県別に示したものです（警察庁「道路の交通に関する統計」）。

山口県は、平成28年は約47%と、前年の約69%から減少し、全国平均を下回っています。依然として約5割に近い状況です。

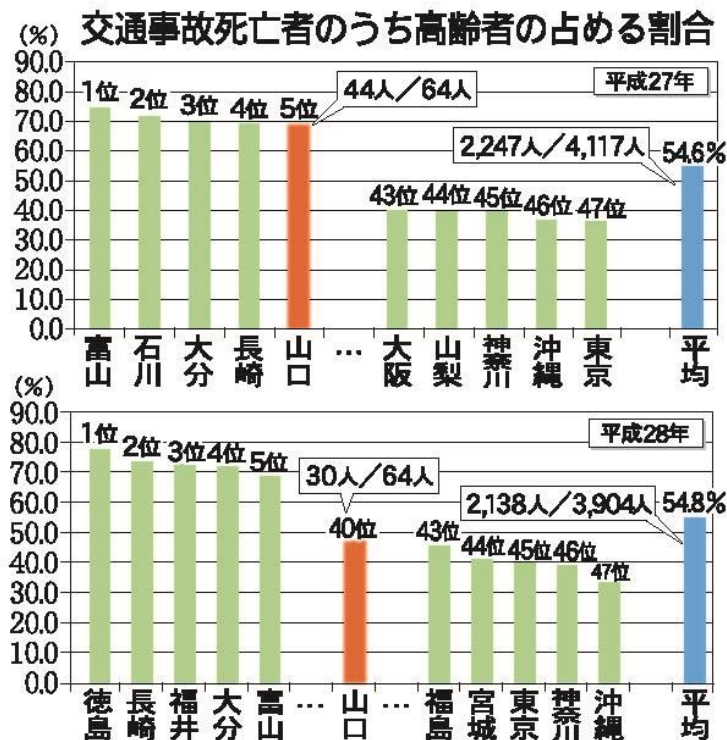
一方、山口県警察本部の「交通統計（平成28年）」によれば、高齢者の交通事故による死者数30人の内訳は、歩行者16人、自転車2人、二輪車2人、その他8人となっており、さらに歩行者について時間別にみると、午後6時から午後10時の間が9人と最も多くなっています。

このデータからも、特に夜間高齢歩行者の死亡事故が多発している状況がわかります。

ドライバーの皆さんは、早目のライト点灯やハイビームの活用によって、視界を広くすることができます。

また、歩行者の皆さんはドライバーに自分の存在を示すことが効果的なので、夜間の外出では反射材を着用することが望ましいですが、明るい色の服を着ることや、身近なところでは白いレジ袋を持っているだけでも、意外と目立ちます。

皆さんが少しずつ気を付けることで、高齢者の方だけでなく、全ての方の交通事故を防止することができるのではないのでしょうか。



出典:警察庁「道路の交通に関する統計」